



江南小だより

八戸市立江南小学校 学校だより
令和5年2月28日発行
通算第542号

教育目標「強い子になろう」

校長 笹川 力

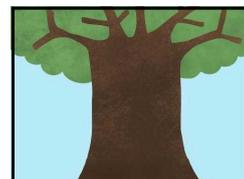
如月から弥生へ。二十四節気は立春・雨水から啓蟄に移ろうとしています。注ぐ日差しにも、春の柔らかなぬくもりが感じられるようになりました。

今日、2月28日（火）の全校朝会では、子どもたちに江南小学校が代々受け継いできた教育目標「強い子になろう」についてお話をしました。今回ベースにしたのが、レジリエンスという考え方です。レジリエンスとは「逆境や困難に対する回復力・適応力」という意味の心理学用語です。

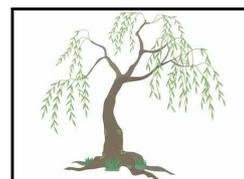


むかしむかし、丘の上に立っていた1本の高い木が、激しい風で幹からぽきりと折れてしまいました。それを見ていた3本の小さな木（大樹、優樹、友樹）は、考えました。どうしたら折れない木になれるだろうか。いっしょうけんめい考えました。

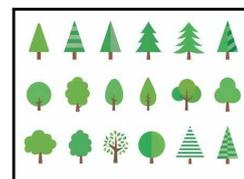
大樹…風が吹いてもびくともしない、太い幹を作ろうと考えました。そのために、太くて長い根を土深く伸ばしました。そして、あわてて背を伸ばすのではなく、太い太い幹の木になろうとしました。



優樹…風が吹いても折れない、柔らかくて芯の強い幹の木になろうと思いました。しなやかな枝、細い葉、曲がっても元にもどるからだを作りました。



友樹…風が吹いても、仲間と助け合おうと思いました。鳥にたのんで、森の中に木の種を落としてもらいました。太い木、細い木。高い木、低い木。緑の木、葉を落とす木。いろいろな木が共に生きる森ができました。



当然、このお話は比喻で、「風」を自分に降りかかる困難、「樹木」を自分の心に置き換えて考えることができます。もちろん、正解は一つではありません。そのときの状況によって、いろいろなやり方があると思いますし、それぞれ自分に合った方法があるのだと思います。

「つよい子江南」。これからの時代にも通じる教育目標だと思います。一人一人が自分に合った「強さ」で、変化の激しい社会に乗り出して行ってほしいと思います。